



緑内障

緑内障とは、目から入ってきた情報を脳に伝達する視神経に障害が起こり、視野(見える範囲)が狭くなる病気です。治療が遅れると失明に至ることもある、日本での失明原因第1位の病気です。

患者数も多く、日本緑内障学会によると40歳以上では20人に1人が緑内障という報告もあります。

また、病気に気づかずにいる人もおり、今後ますます患者数が増えることが予想されます。



緑内障の見え方

緑内障は、少しずつ見える範囲が狭くなっていきます。異常に気づいたときには、かなり進行している可能性があります。

正常

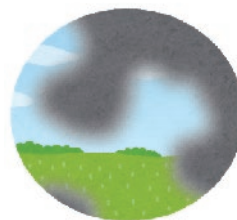


緑内障初期

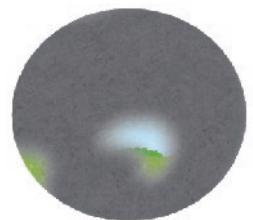


異常に気づかない

緑内障中期



緑内障後期

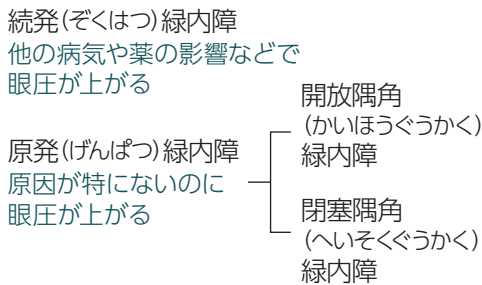


まだ異常に気づかないことも多い。

日常生活に支障をきたす。

緑内障の種類

緑内障



開放隅角緑内障

一般に多いのは開放隅角緑内障です。開放隅角緑内障は、眼圧上昇は軽度で、慢性緑内障であることがほとんどです。視野障害の進行なども通常はゆっくりです。

閉塞隅角緑内障

眼の中の水(房水)の出口である隅角が閉塞するために、急激に眼圧が上がる場合があります。治療が遅れると短期間で失明に至ることもあるので、緊急の対応が必要です。

ほとんどの患者さんは問題になりませんが、緑内障の方は、念のため眼科医に使える薬はないか確認しておくといでしょう。

⇒ステロイド薬、風邪薬、花粉症の薬など、薬によっては眼圧を上げてしまい、緑内障の方では使用できないものもあります。

【参考】

日本緑内障学会
参天製薬HP
日本眼科医会

緑内障の検査・緑内障の治療

眼圧検査 直接、目の表面に測定器具をあてて測定する方法と目の表面に圧縮した空気をあてて測定する方法があります。

眼底検査 視神経の障害の度合いを調べます。

視野検査 視野の欠損(見えない範囲)の有無や大きさから緑内障の進行の具合を判定します。

点眼薬による治療

緑内障のタイプや進行具合などに応じた点眼薬を用いて眼圧をコントロールします。点眼薬には多くの種類があり、数種類を組み合わせる場合もあります。

それでも進行する場合には、外科的治療を行います。痛みが少なく外来で可能です。

一度失われた視野は戻りません。40歳を過ぎたら検査を受けるようにしましょう。

緑内障を進行させないためには、きちんと通院し薬を正しく使うことが大切です。

お困りのことがあればいつでも医師・薬剤師にご相談ください。